

2019年  
11月号



# 社協だより

月刊

社協  
かるが

発行：狩留家地区社会福祉協議会 編集：広報部  
広島市安佐北区狩留家町3144番地 TEL：844-0826

## 地域の宝「子供」を育むため

この度、前文部科学大臣柴山昌彦氏の文章と広島市教育委員会発行の「学校における働き方改革」のリーフレットが送られてきました。「社協だより」に付けて回覧します。

それらを見ますと、現在の教員の勤務実態は大変過酷なものがあり、一日の仕事のイメージは、朝出勤すると、授業準備や登校指導から始まり朝

礼・授業・昼食・掃除・授業・帰りの会・会議・打合せ・学年学級会議・部活動があり、時間外には授業準備・校務分掌・保護者対応・会計事務等が日常業務となっていてます。その他、土・日に地域活動への参加行事もあります。このような多忙な労働環境では、疲れ切つて斬新な発想と心豊かなゆとり教育に当たるのは困難だと言われています。学校は、子供たち一人一人が、変わりゆく未来をたくましく生き抜く力を身に付ける場所です。子供たちに社会で生き抜く力を身に付けさせるため

には、教員が健康で、笑顔で働けるゆとりのある環境が必要です。PTAや地域の理解と協力が求められています。

私たち狩留家ジンは子供を愛し、子供に奉仕しています。十年以上も前から続けている「登下校の見守り活動」、「ちびっこ広場の納涼祭り」そして隔年に実施されている「狩留家の星を見る会」

狩留家社協主催の「スマホ体験講座」が、十一月七日、狩留家集会所で開催されました。以下は、スマホをはじめて体験されたOさんの感想です。

### 狩留家スマホ体験講座開催



「湯坂川の希少動物の観察会」、さらに児童との「昔遊びの会」園児と高齢者の交流会である「ぬくぬく会」「しめ縄作り」等々、子供たちに郷土愛と情緒を育むための活動をしています。

保護者はPTA活動や子供会育成活動さらに「秋祭り」「亥の子」など地域ジントともに地域の伝統を伝える活動をしています。家庭と学校と地域で子供をばぐぐんでいきましょう。(会長記)

★★★  
回覧板をみて、スマホの勉強会があることを知りました。当日は、二十一名の参加が、ありました。家族に習いに行くことを伝えると、孫が「ガラケーもよく分かっているのにスマホが使えるかね？」ですってー！

でもすぐに申し込みました。十一月七日の十三時三十分より二時間近くが、あつという間に過ぎ、平素スマホを使われている方が、分からないところ

- 理事会報告(令和元年十一月十二日)
- 議題
- 一、心肺蘇生と色々の研修会 (十一月二十四日)
  - 二、ぬくぬく会サロン交流会について(十二月五日)
  - 三、令和元年度安佐北区社会福祉大会 (十一月二十六日)
  - 四、芋煮会について (十一月二十三日)

が分かったと嬉しそうでした。災害の時、地図の見方、指の使い方等々、調べたときすぐに答えが返ってくる、それも声でスマホに向かつて言うだけ、すごい！  
私が一番喜んでいっていると

### 優しさ発見したよ!!!

十月二十七日の「かがわこどもフェスタ」で狩留家地区社協は、「車椅子体験」コーナーを設けました。「優しさ発見」をテーマに今年で九年目となります。  
二人でペアになり乗る人・押す人の体験をしました。直進↓カーブ↓坂道の昇降等いろいろな道を通り、車椅子を押すときの心遣いを学びました。また、出発前にはブレーキをかけておくこと、

「乗っている人の気持ちを理解して押そうと思つた」の声があり優しさを発見のテーマが浸透していけば幸いです。

十月資源ごみ売上 一万九千円

月刊

# 社協だより

2019年  
12月号



発行：狩留家地区社会福祉協議会 編集：広報部  
広島市安佐北区狩留家町3144番地 TEL：844-0826

## ホット・ホットな狩留家ジン

狩留家で福祉の町づくりを推進して九年になります。数年前に、狩留家で不足していた欲しいものは何ですか？とアンケート調査でお尋ねした時、①交通の便を良くして欲しい、②狩留家に福祉施設を作って欲しい、③狩留家で買いたい物が出来るようにして欲しいと言うように大きく三つに集約されました。

福祉施設や小売業の導入について、色々とお話を絞って交渉してきましたが、過疎で土地の狭い狩留家では、今日明日に実現できるものではありません。施設や小売業を維持するためには入所者も働く人も購入者も必要です。折衝はしていますが、いろいろな条件をクリアする必要があります。

狩留家に住まわって、交通の便（移動の環境）が良くなると、病院にも買い物にもある程度自由に行けるようになり、狩留家で晩年を過ごす不自由さは相当緩和されます。その上、居宅介護の環境

が整えば、狩留家は高齢者にとってハイクラスの終の棲家（ついのすみか）となります。

そのような狩留家まです移動の手段を整えることだと思っています。一つ考えられる事は、向こう三軒両隣、又はそれよりももう少し大きい班や講中単位で、自動車の相互乗合の仕組みを作る事です。そしてそのグルー

## 狩留家わいわいガヤガヤ芋煮会

十一月二十三日（土）に第二回芋煮会が開催されました。当日は、晴天に恵まれ、狩留家町民の多くの方々に参加を頂き盛大な会となりました。

野外では、メインイベントである芋煮会を始めて、農作物販売、かご入れビンゴゲーム、野菜の重さあてクイズ等。また、屋内ではクラフト作品展示やカフェコーナー、健康相談、集会所サークルの発表がおこなわれました。

## 芋煮会

十一月二十三日（土）によるもので、主食材である里芋の栽培、収穫、調理を行っていただきました。里芋には、深川芋、愛媛芋の二種類があるそうで、それぞれが大なべで、肉・大根・椎茸・コ

ンニヤク等と一緒に、ぐつぐつとおいしそうな湯気をあげていました。深川芋と豚肉、愛媛芋と猪肉の組み合わせをそれぞれ二杯ずついただきましたが、里芋のねっとりとしたうまみが感じられる逸品で、白いご飯とのコンビネーションも最高でした。

## 理事会報告（令和元年十二月十日）

議題

- 一、保育園児と締め縄づくりについて（十二月二十五日）
- 二、新春文化講演会について（一月十一日）
- 三、ボランティアセンターの組織図と活動について

大広間での集会所サークルの発表も活発で、ハーモニカ（あおぎり）、県民謡、ヨガ教室、カラオケグループがにぎわいをくわえてくださいました。紙芝居もドキドキワクワクと子供のころに戻る事が出来ました。

## AED講習会に参加して

私が一番最初にこの講習を受けたのは、平成二十年でした。会社の取り組みで全員出席。それからは受ける機会がなく辛いにも目の前で誰かが倒れたりする場面にも接することがなく平々凡々に過ごしてきました。ですが昨年の豪雨や災害に接し身近にいのちの危険が迫ることや家族がいつも元気で無事に過ごせるのが当たり前ではないと感じ

始めるようになりました。改めていのちの重みも考えるようになったと思います。そんな時地元で講習があると聞いて十年ぶりに出席しました。何度出てもまだ分からないことがあるけれど教えてもらいながら実際にやると少し勇気が出そうなのがします。いざという時の備えを学ぶため、また出席したいと思えます。

十二月資源ベニみ売上 二万一千円

月刊

# 社協だより

2020年  
1月号



発行：狩留家地区社会福祉協議会 編集：広報部  
広島市安佐北区狩留家町3144番地 TEL：844-0826

## 新春文化講演会 「移動支援サービスについて」

講師は「NPO法人移動ネットおかやま」の理事長・横山和廣様です。

人生百年時代、買い物や通院に不便を感じる高齢者がだんだんと多くなってきました。通院などの

移動手段について、仕事がある子供には頼み難いし、友人にもたびたびは頼み難いなど日常生活に不便を感じ、ついつい引きこもりになってしまいう高齢者もおられます。

道路交通法という厳格な法律があり、私たち素人が運転して他者をお乗せすることは難しかったですが、高齢者の増加に伴い、司法や行政も変わらなければならぬ状況になりました。任意の謝



礼や実費のみの支払の住民主体の運送は「道路運送法の枠外」で許可や登録が必要のない活動とみなされるようになりました。

お世話をする側の心配は、事故が起きた時のことですが、実際に岡山で長年数多くの運行を手掛けてこられた「NPO法人移動ネットおかやま」では、もらい事故が一件

あっただけで、自損事故はゼロでタクシーより事故率は少ないそうです。事故については福祉保険で対応出来るそうです。

今年、狩留家地区社協ではこの移動の課題について取り組んでいきたいと思っています。用いられる車両については現在

考えうる一番安心な車両の状態に整備し、安心な保険に加入することで運転者の精神的負担を少なくして「狩留家中で相乗りが出来る地域社会作り

をしたい」と思います。皆で「移動を助け合う町・狩留家」の構築です。住みよい社会にするため皆で行動しましょう。会合

## 狩小川小で凧あげの会

1月15日に、狩小川小学校1年生が、「たこあげの会」を行い、狩留家地区と上深川・小河原地区の社会福祉協議会の方々に、「凧揚げ名人」として指導のために参加していただきました。「むかしあそびの会」「たけうまの会」に続き、3回目の会でしたので、児童はすぐに名人先生

に打ち解け、楽しく活動することができました。

前日の天気とは打って変わり、この日は、暖かい日差しと凧揚げに最適な風に恵まれました。凧が空に舞い上がったときには、「ワーッ。」という歓声がいろいろなところから上がり、児童は皆、満面の笑みを浮かべていました。青空にたくさんの凧が上がった景色は、見事なものでした。

このように、児童の活動を助けてくださったり、成長を見守ってくださったりすることに大変感謝しています。ありがとうございました。  
(狩小川小学校 1年担任 伊藤 直子)

なかなかなできない体験をさせていただき、子供たちだけでなく若い保護者の皆様にも、日本の伝統文化を伝える良い機会となりました。しめ縄作りのために、いろいろとご尽力くださった皆様、本当にありがとうございます。



## お正月の準備しめ縄作り

昨年十二月二十五日に狩留家地区社会福祉協議会のご協力でしめ縄作りを行いました。

しめ縄の由来や作り方を興味深く聞いた後、地域の皆様に優しく丁寧

狩留家保育園 廣谷澄恵

教えて頂きました。実際縄をない、少しずつ出来上がっていく様子にワクワクしながら、最後にお飾りをつけてもらって「できた！」とニコニコ笑顔。

お迎えの時、自分のしめ縄を手に、うれしそうにお家の方にお話ししながら見せ、お家の方も笑顔で聞いておられました。

## 愛の灯

久保田 昇様より病氣お見舞の返礼としてご寄付頂きました。一日も早い平癒をお祈りしますとともに御礼申し上げます。

十二月資源ごみ売上 二万円

